

野村いくよ 市政報告だより

No.38
2026.1.23



12月定例会一般質問

野村いくよの 活動日誌 (抜粋)

おもな活動を記載しています / Facebookもやっています

野村いくよ公式ホームページ URL:nomura-ikuyo.com/

9月

- 5(金) 9月定例会初日
- 7(日) 五常校区コミュニティ協議会合同会議
- 12(金)~18(木) 一般質問
- 20(土) 9条連近畿学習会 「私たちの身近に弾薬庫」と題して京都・祝園ミサイル弾薬庫を考える住民ネットワーク副代表神田さんからお話を伺いました。
- 22(月) 定例会月議会6日目
- 24(水) 枚方市敬老のつどい
- 26(金) 連合北河内政策研修会
- 27(土) LC第36回平和ポスター表彰式
五常校区夏まつり
- 29(月) 全員協議会「枚方市駅周辺再整備の取組について」

10月

- 1(水)、2(木)、7(火)、8(水)、14(火) 決算特別委員会
- 3(金) 日本女性会議2025榎原 GFHのメンバーと参加 分科会子ども「子どもの『自分らしさ』と『生きにくさ』をめぐって」分科会教育とジェンダー平等「奈良で理工系女性人材を育てる」特に後半の教育とジェンダー平等の分科会は、現状を知ることができ多くのことを学ぶことができました。
- 4(土) なくそう！官製ワーキングプア大阪集会
- 9(木) 枚方市追悼式
- 12(日) レインボーフェスタ(扇町公園) 尾辻衆議院議員の仲間と一緒に扇町公園スタート、雨の中のパレードに参加しました。沿道からのハッピープライド！の声をいっぱいもらいました。途中でリタイアしてしまいましたが、有意義な時間を過ごしました。
- 14(火) 「生きること」連続講座 「ダウン症の娘とともに歩んだ23年、そして今考えること」と題して住田功一さんから自然災害時の福祉避難所の課題等を聴きました。
- 17(金) 9月定例会月議会最終日
- 19(日) 「私たちは二度と戦争をしたくない！平和でこそ文化は香り立つ！祝園全国集会」@けいはんな記念公園 ピースフェスや全国リレートークがあり、ピースパレードにも参加しました。知っている人たちに会って、祝園弾薬庫問題にとりくむ気持ちが強くなりました。
- 23(木) 連合北河内議員団会議
- 24(金) ひらかた平和講演会 主催 国際芸術文化アカデミー ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)事務局長の濱住治郎さんが「原爆は悪魔の兵器 核兵器のない平和な未来へ」をテーマに講演されました。その後は、アカデミーから市に寄贈された枝垂れ桜の植樹式が行われました。戦後80年は被爆80年でもあります。核と人類は共存できないことを改めて確認いたしました。

11月

- 1(土) JR西労議員団第36回総会
- 8(土)~9(日) 部落解放共闘女性連絡会議一泊合宿 ①学習会「大阪府の男女共同参画政策について」②学習会「韓国の近現代史から見た女性たちのたたかい」崔 誠姫(大阪産業大学 准教授) ③学習会「人間みな兄弟」上映&討論

- 11(火)~12(水) 市民福祉常任委員会先進都市研修 愛知県豊田市「重層的支援体制について」神奈川県大和市「終活支援及び高齢者の孤独・孤立防止対策について」
- 14(金) 北河内地区教職員組合主催 2025教育改革フォーラム「息苦しさはどこからくるの—非人間的な社会に加工しないために」講演 桜井智恵子さん(関西学院大学教授)
- 16(日) 五常文化祭 四中と香里ヶ丘高校との吹奏楽部による演奏会はずばりかったです！他にも地域の方たちの展示等楽しませていただいています。
- 17(月) おおさかヒューマンライツ自治体議員の会第6回総会 役員体制で私が新たに幹事に選出されました。記念講演①「助けてと言える地域へ—希望のまちを創る」奥田知志さん(特定非営利活動法人 抱樸 理事長)。記念講演②「部落解放運動を取り巻く当面する釐成と課題」部落解放同盟大阪府連合会書記長 高橋定さん 包括した「差別禁止法」、独立した「人権機関」、狭山事件の再審開始を強く求めていかなければなりません。
- 18(火) 第65回大阪府市議会議員研修会 「医学のレジリエンス—みらいへの挑戦と貢献」澤 芳樹さん(大阪大学特任教授)
- 21(金) 枚方退職女性教職員の会しおん会 秋の研修会 大阪歴史資料館 どちらかと言えば展示を見るよりおしゃべりの方が多かったような…
- 22(土) 友好都市物産展 別海町のホタテをゲットできたので満足！原発・核燃からの撤退を！'25関西西会 ゲストが加藤登紀子さんということもあり、会場のドーンセンター大ホールは満員でした。「核の時代80年の歴史」と題してのトークと歌「百万本のバラ」はやっぱり圧巻でした。
- 24(月) 多文化フェスティバル 日中友好協会での参加 行くのが午後遅くなってしまいましたが、少しお手伝いできたつもりです。
- 26(水) 市民福祉委員協議会
- 28(金) 各派議連
- 29(土) 平和を訴えるコンサート JR西労の方が中心になって毎年行われているコンサートです。戦後80年二度と戦争を起こさないためにも語り継ぐことを！

12月

- 4(木) 枚方市薬物乱用防止連絡会
- 5(金) 12月定例会初日
- 6(土) 連合大阪政策政治フォーラム第12回総会・学習会 「『副首都構想』という維新式騙しのテクニク〜その欺瞞と矛盾を暴露する」講師 吉富有治さん
9条連近畿総会・学習会 「戦争はなぜ終わらないのか？—広がる自国中心主義」講師 西谷文和さん
- 7(日) みんなではぐくむいのちのフェスタ 主催 五常小学校 学校運営協議会保健人権部会 包括的教育を上げようとりくんでおられます。
- 12(金)、15(月)、16(火)、17(水) 一般質問
- 19(金) 12月定例会月議会最終日

2026年 1月

- 5(月) 立憲月イチ街宣 枚方市駅にて新年のご挨拶 その後市議会主催の新年交歓会
- 6(火) 北大阪商工会議所新年賀会
- 7(水) 連合大阪・労協協新春のつどい
- 9(金) JR西労新春旗開き
- 10(土) であいの会 歩こう会
- 12(月) 第77回枚方市「はたちのつどい」私は四中に参加です
- 15(木) 薬物乱用防止教室 長尾西中学校 (ライオンズクラブの認定講師として)
- 17(土) 立憲大阪ジェンダー平等推進委員会映画鑑賞「取り残された人々：日本におけるシングルマザーの苦境」@弥生の風ホール
この活動日誌は1月7日作成です。以降は予定を記しています。

すべては子どもたちの今・未来のために…

いつも野村いくよの活動へのご理解ご協力ありがとうございます。

時の流れは早いもので、今年が議員歴24年目に入ります。まだまだやらなければならないことはありますが、体力はどうだろうかと密かに悩んだりもしています。

昨年の11月末に「平和を訴えるコンサート」に参加しました。実行委員長のあいさつで、「戦争を知っている世代が政治の中枢にいるうちは心配ない。平和について議論する必要もない。だが戦争を知らない世代が政治の中枢になった時はとても危ない。」という田中角栄さんの言葉を紹介されました。「今がまさにその時！」と私だけではなく、会場にいたみんなが思ったと思います。昨年の夏の参議院選挙で敗北をし、それ以降の政治については、モヤモヤしています。「意思決定の場に女性を！」という言葉に押されて政治の世界に足を踏み入れた私ですが、日本で初めての女性総理大臣の誕生にどう考えを整理したらよいか…：一つハドルを低くしたことに間違いはないと思いますが、それでも「あなたじゃない！」と言いたいです。

ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の方の話が被爆80年敗戦80年の昨年にも何回も聴く機会を得、「核と人類は共存できない」とそのたびに確認していましたが、核保有について言及する人たちがいるのはなぜ？物価高騰の中、多くの人が困窮しているというのに、国の予算では防衛費が増額されるのはなぜ？と怒っています。

NHKの朝ドラ『虎に翼』『あんぱん』そして今『ばけけ』を欠かさず観ています。主題歌にあるように毎日なんぎなことばかり♪日に日に世界が悪くなる♪…

平和と民主主義をあきらめず、人権が尊重される社会を求めて多くの人とつながりこれからも歩いていきたいです。



摂津市議会議員選挙 (9月4日)



日本女性会議2025榎原 (10月3日)



部落解放共闘女性連絡会議一泊合宿in滋賀 (11月8日~9日)

号外
立憲民主
RIKKEN MINSHU

2026 冬号
号外
立憲民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1 三宅ビル7F
電話03-3595-9988
https://cdp-japan.jp/

9月定例月議会 (9月5日～10月17日)

一般質問を9月12日に行いました。質問は以下の通りです。

1. 子どもの権利について

2023年4月にこども基本法が施行され、「こどもまんなか社会」の実現を目的としたこども家庭庁が発足しました。「こどもまんなか社会」が具体的にどうあるべきかについて問いました。

『子どもを一人の権利主体として捉え、子ども自身の意思において決定し意見表明がなされるべきものである。意見を聴いて終了ではなく、子ども施策への反映の検討を行い、反映できなかった意見への理由説明なども含め、子どもたちへ適切にフィードバックすることが重要である』との答弁を得ました。

「子どもの声を聴く」の実践として、車塚公園や河川敷スケートボードパークの整備など、子どもたちのワークショップを企画し参画してもらう。また子ども・若者施策に係わる審議会でも当事者を審議会委員に選ぶなど、声を確実に聴く環境整備を行うよう要望しました。

2. 不登校児童・生徒の支援について

各学校に設置されている校内教育支援ルームをどのように位置づけ、充実させていくのかを聴きました。教室に入れない、入りたくない児童生徒にありのまま安心して居場所があり、様々な子どもたちがゆるやかにつながり、お互いを受け入れることがインクルージョンの実現になると考えます。

不登校の児童生徒の最善の利益とは何なのか、子どもの声を聴きながらのとりくみをすすめていくことを要望しました。

3. 部活動の地域移行について

部活動の地域移行には、時間がかかりかかると思います。現在、教育委員会で実施されている「市立中学校の通学区区域制度の弾力的運用」において、部活動の理由による指定校変更は役割を終えることとなります。指定校変更で入学した生徒数は、ここ数年全体で100人にも満たないほど減っています。

部活動を理由とした指定校変更の必要性について検討するという答弁を得ました。制度そのものも必要ないと判断すべきである、と意見をのべました。

4. 学校給食について

中学校給食における欠席者分への対応については6月議会からとりあげています。

給食を注文している生徒が休んだ場合、その給食は廃棄処分されます。小学校の場合は食缶方式なので、欲しい児

童に分けることができるのですが、中学校はランチボックス方式選択制なので、おいしい給食課は欠席者分の配布許可等の課題があり、中学校の残食の多さをまず減らすべき、と論点をすり変えられてしまいました。

欠席者分が分配されないわけですから、それは多いでしょう。フードロスをなくすとりくみをすすめているのに、真逆のことを行っているのは教育上いかなものでしょうか。子どもたちの声、学校現場の声を聴くように意見・要望しました。

5. 教職員の働き方改革について

2025年6月18日付で「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律」(いわゆる給特法の一部改正)が公布されました。

学校教育の質の向上に向けて、教師に優れた人材を確保する必要があることから、学校における働き方改革の更なる加速化、組織的な学校運営及び指導の促進、教師の処遇改善を一体的・総合的に進めることになりました。

枚方市においては「笑顔の学校プロジェクト」として働き方改革を進めているところです。同僚性が高い職場では個々人が感じる疲弊感があまりないようなので、そのような環境を整えていくためにも教育委員会としても研修や行事等の精選も含めて「業務改善」「労働安全衛生」「ワークエンゲージメント」を柱としたとりくみをさらに進めるよう要望しました。

決算特別委員会 (10月1、2、7、8、14日)

久しぶりに決算特別委員になりました。質問項目は計17項目。3項目をここで紹介いたします。

●「枚方市平和の日」のとりくみについて

2024年度のとりくみは、禁野火薬庫の大爆発についてや妙見山配水池の煙突に触れられ「3.1平和の日」の原点に戻った内容となりました。また手作り感一杯で本当に良かった、と感想を述べ永続的にとりくむよう要望しました。

●学校司書について

学校司書の現在の配置について確認したうえで、国からの予算措置は総額裁量制ということなので、優先順位を見極め、存在意義の大きい学校司書の全校配置を進めるべく関係各部署との調整等を図り、財源措置をし、各校における読書活動の充実が図れるよう要望しました。

●配慮を要する児童生徒への支援について

学校教育活動の中で教職員が理学療法士から受ける助言は各学校で行っている自立活動をより充実していくことに繋がっています。自立活動の充実は、障害のある子どもたちが将来自分らしく社会で生きていくためにとても大切ですが、学期に1回から3回しかその機会がないのは少なすぎます。本事業に対する学校のニーズは高く、充実させていくために、予算や人材の確保について要望しました。

学校エレベーター整備についても、優先すべき学校を的確に決め、整備の加速化を進めるよう要望しました。

12月定例月議会 (12月5日～19日)

12月16日に一般質問を行いました。質問は以下の通りです。

1. 手話言語条例に基づくとりくみについて

市民福祉委員協議会での医療通訳士登録派遣事業の見直しについての報告には、外国語の医療通訳士のことだけだったので、手話も言語の一つですよ！との問いを投げかけたところから、今回の一般質問につながりました。

15年ぐらい前に枚方市民病院に手話通訳士配置の要望がありました。そこから医療通訳士派遣事業(手話を含む)までのとりくみを思い出し、その時に「手話は言語の一つ」と学びました。当時の市民病院は、手話通訳者の配置には消極的で要望は叶いませんでしたが、2021年3月「手話でつむぐ住みよいまち枚方市手話言語条例」が施行されました。

条例に基づき、枚方市のとりくみを確認したとこと、耳の不自由な人が公的機関や医療機関などに出向く時に手話通訳者の派遣やタブレット端末を活用した遠隔手話通訳サービスの実施、手話通訳者の養成や技能向上を目的とした講座(医療現場での対応力向上も含む)も行っているとのことでした。

現在の市立ひらかた病院でも「手話通訳者派遣サービス」や「遠隔地手話通訳サービス」、外国語への対応は独自のタブレットを使った「遠隔地医療通訳サービス」を活用しています。今まで別々に手話、外国語を掲示していましたが、手話も言語の一つとして同一の掲示物として作成し周知方法について改善するとの答弁を得ました。



桜井さんの著書

北河内地区教職員組合主催 2025教育改革フォーラム(11月14日)

講演「息苦しさはどこからくるの
—非人間的な社会に加担しないために—」
桜井智恵子さん(関西学院大学教授)

桜井さんの講演によって、普段考えていることがより自分の中で鮮明な形となりました。

枚方市教育振興基本計画には「社会を生き抜く力の育成」が掲げられています。「生き抜く」とは競争社会で勝ち抜くことです。学校は、勝ち抜く子どもを育てる場ではありません。子どもたちは「個別最適化」という言葉で分断され孤立しています。失敗すれば自己責任論で責められます。私は「ま、いっか」という言葉が好きです。うまくいかなかった時に力を抜きあきらめる、ということです。あるがままでいいですよ。

ご意見・ご質問がございましたら e-mail : 194-nomura@mvf.biglobe.ne.jp (野村) までお寄せください。

2. 子どもたちを薬物乱用から守るとりくみについて

枚方市オリジナルの啓発リーフレットについて「ダメ。ゼッタイ。」ではなく、「薬物乱用をなくそう」という文言に改めたとのこと。なぜ若者・子どもが薬物乱用に取り込まれるのか、その子どもたちの背景を私たちは知らなければならぬと思っています。子どもたちの抱える生きづらさはどこからなのか、誰にも話せず(相談できず)孤立していないか、学校は、どの子も無条件で当たり前を受け入れられ、学び合える場所であるべきと意見をのべました。

3. (仮称)枚方市の支援教育の在り方(素案)について

枚方市支援教育充実審議会答申を経ての支援教育の在り方(素案)には、個別の指導・支援について具体的なとりくみ(いわゆる個別最適な学び)が詳細に書かれています。「ともに学び、ともに育つ」教育のとりくみについての答弁は「枚方市が大切にしてきた理念であり、今後も堅持する」でした。

理念の堅持ではなく、障害の有無に関係なく、ありのままを認め合える関係づくりが重要だと思っています。「できないことはできなくてもよい」「できないから、みんなで補い合う」それが、私が思う「ともに学び、ともに育つ」教育です、と意見をのべました。

4. 第4次男女共同参画計画～ジェンダー平等の実現に向けて～(案)について

計画の進捗を測る指標として19の指標が設定されています。その指標からいくつかピックアップして要望しました。

- ・男女共生フロア・ウィルの認知度をあげること
 - ・デートDV予防教育プログラムの拡充
 - ・性的マイノリティ支援施策の拡充
 - ・包括的性教育についての言及
- 以上については、今後も一般質問でとりあげていきます。

おおさかヒューマンライツ 自治体議員の会(11月17日)

講演「助けてと言える地域へ～希望のまちを創る」
奥田知志さん(特定非営利活動法人 抱撲 理事長)

奥田さんの講演も桜井さんの講演とつながる内容でした。「弱者共存」強者は勝ってきたから(生き抜いてきた)孤立する。「助けて」と言えるまち「地域共生社会における互助機能の強化」を進めていく、と思っていることが言語化されると力になります。



講師の奥田さんと